

私立 栢山女学園大学

取組名称 次代を生き抜く『人間力』を核とした就職基礎力の支援強化

取組担当者 学務部 キャリアサポート課 課長 清水 敬子

1. 本学の概要

栢山女学園大学の歴史は、1905(明治38)年に「名古屋裁縫女学校」として名古屋市に設立されたところから始まる。その後、1930(昭和5)年に「栢山女子専門学校」を設置し、女子の高等教育機関として教養豊かな人間的魅力を備えた女性の育成に貢献してきた。戦後の教育改革において1949(昭和24)年に新制度の大学「家政学部」を設置して以降、確実な発展と改革の道を歩んできた。

現在は、星が丘キャンパスに生活科学部、国際コミュニケーション学部、文化情報学部、現代マネジメント学部、教育学部、看護学部の6学部が、日進キャンパスには人間関係学部の1学部がある日本の女子大学では最多の7学部を擁する女子総合大学であり、現在、約5,700名の学生が学んでいる。

本学では、これまで長い年月にわたり女子教育一筋に取り組み、「人間になろう」を教育理念として、人間性豊かで教養あふれる女性の育成に努めてきた。名古屋市を中心とした中部地方での厚い信頼を得るとともに、今後も教育・文化・研究面でのさらなる貢献を強く期待されている。中央教育審議会答申「わが国の高等教育の将来像」において提言されているもののうち、「幅広い職業人養成」「総合的教養教育」「特定の分野の専門的分野の教育・研究」「地域の生涯学習機会の拠点」「社会貢献機能」の各種機能の1つあるいは複数各学部において分担し、全体としてこれらの機能を担う大学として今日に至っている。

2. 本取組の概要

本学は、東海地区の上場企業において、社会への適応力を持つ人材を輩出しているとして高い評価を受けており、今日まで着実に就職実績を伸ばし、卒業生は様々な企業で活躍している。しかし、近年の女子学生の就職については、経済状況や雇用情勢の影響を受けやすいため、早い段階から「働くことの意義」を理解

するためにインターンシップの実施や、学生が自立的にキャリア形成を図ることができるよう、資格取得支援講座や就職支援セミナー等を設けているが、昨今の厳しい雇用情勢のなか、本学学生の特性を生かした『人間力(マナー、自己PR力、ディスカッション力)』を核とした就職基礎力育成のための各種講座を充実強化していくことにより、職業人としての自覚を促し、すでに増員している就職相談員を中心に、さらにきめ細かい就職相談体勢を組むことにより、就職困難な学生に対して適切に支援できる体勢をキャリアサポート課が主となり全学体勢で取り組む。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 本取組の趣旨・目的

本補助事業は、女子学生のキャリア教育において、「ワークライフバランス」に象徴されるように、女性としての一生の生き方や働き方を考える機会を設けることが重要であると考え、それには人間力の向上と一般常識の強化が必要であり、これを伸ばすことにより、職業と家庭のバランスのとれた女性の育成を図り、これらの向上を目指した訓練と職業指導を充実して就職支援体勢の強化に資するため、女子学生が不足しがちな自己PR力やディスカッション力と敬遠しがちな数的処理能力や時事問題を強化し、学生各自が自己への自信を身につけることにより就職基礎力を育成し、また、マナー講座や一般常識テストから得られた結果を就職相談で個別に対応することで、就職希望者全員が自己を正確に認識し、希望する職業に就職できることを目的とする。

(2) 達成目標

本年度は、上記の自己認識を明確にして、職業意識を高めることを達成するために、マナー講座(所作、自己PR力、ディスカッション力を磨く講座)をきめ細かく実施し、すでに行った一般常識テストの結果に基づき、自己の利点や弱点を認識させ、基礎学力と絡め

て学生に対する職業意識の一層の向上を図ることである。具体的には、① 2月～3月 就職対策マナー講座の実施、② 2月～3月 就職相談体勢の充実を行った。

本年度の補助事業実施計画を実施することにより得られる具体的な達成目標は、以下のとおりである。

- ① 就職対策マナー講座を実施し、所作の理解、自己PR力・ディスカッション力の強化を図ることにより、学生各自が自己への自信を身につけることができ、自己認識を明確にし、職業意識を向上させる効果がある。
- ② 就職相談体勢を充実することにより、就職活動において困難に直面した学生に対し、就職対策マナー講座での課題や、すでに行った一般常識テストの結果を踏まえて職業指導を行うことで、自己の利点や弱点を認識させ、基礎学力と絡めて学生に対する職業意識の一層の向上を図ることができる。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 本取組の具体的内容

(i) マナー講座

本学では、学生の就職支援の1つに以前よりマナー講座を開催してきている。就職活動をする上で、3年生の約8割が参加し、その結果採用試験において、企業からの評判もよく、学生にとっても就職活動準備としてマナー講座の経験が自信となるように、さらにきめ細やかに時代に合った講座となるよう、検討し続けている。

講座は、3日間で構成している。その具体的内容は、以下のとおりである。

講師人数：4名

1日目（150分）

- ① 就職の心構え
- ② 自己分析
- ③ 身だしなみについて
- ④ 言葉使いのマナー
- ⑤ 電話応対
- ⑥ 一般常識マナーを講義する

2日目（90分）

自己分析をした後、自己分析シートに沿って個人での自己PRを実施。就職試験に際しての面接会場への入退出の仕方を個別に指導する。

3日目（90分）

グループディスカッションを実施し、受け答えを全

体への講評と学生個人への個別指導をする。



写真1 マナー講座風景

(ii) 就職相談

本学は、1学年1,185名の学生相談を職員7名で行なってきた。1人当たり、169名とかなり多い。又最近、学生の資質が変化してきており、就職活動をする上で、何事にも自信あふれる学生と自分から行動を起こせない学生がいる。心に不安を持った学生に就職活動を促すためには、相談時間が多く必要となり、相談員を増員した。

実際には、学生に就職活動を始める気持ちにさせるには、本人が心の底からこの相談員に相談しようと思う人間同士の信頼関係を結ぶことができるように、じっくり時間を取るようにした。また学生と相談員との相性もあるため、より学生の希望にかなうように配慮した。

その後、具体的には、以下の点に重点をおいて指導した。

① キャリアサポート室の利用の仕方

本学は、名古屋市千種区と日進市に2つのキャンパスがあり、どちらの場所も利用できるようにしている。予約制ではなく、いつでも相談できるように相談室を開放している。

② 自己分析の仕方

4年生時にコンピテンシーをした結果を基に、学生自身の就きたい仕事と関連性があるかどうか、確認しながら、本人の可能性を考慮した求人を紹介している。

③ エントリーシートの書き方

本人が記入したエントリーシートを基に、適切な助言をしている。

④ 履歴書の書き方

基本的な記入分の他、志望動機、卒論の内容、課外活動、私の特徴、趣味・特技の内容に至るまで、事細かに本人の魅力を相談の中から引き出し記入させてい

る。

⑤ 業界・業種・職種についての説明

学生の理解度に合わせ、学生本人の希望の企業について、企業研究をさせている。

⑥ 求人票の見方

インターネットでの求人に頼りがちであるため、本学に対する求人の探し方を自宅でも確認できるように求人ナビシステムへの登録の仕方を教えている。

⑦ 応募方法についての説明

求人票により応募の仕方が違うため、当然知っていると思うが、なかなか電話1本かけたことがない学生にとって、企業への電話のかけ方も勇気があるため、先方に失礼のないように言葉使いを教える。

実際に応募する会社についての企業研究の仕方を教え、OGに仕事の内容を聞くなど、積極的に行動するように導き、学生本人の不安を除くように指導した。

1月からの相談員増加により、内定状況が以下のように向上した。

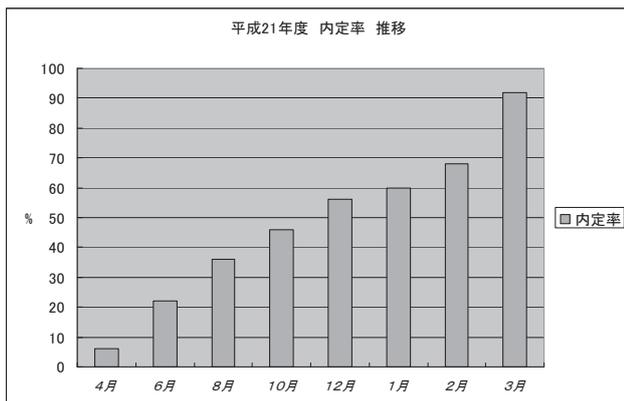


図1 平成21年度月別内定率

以上のように1名相談員が増加されたことで、明らかに内定状況が上向いてきた。

次年度も雇用状況が急激に良くなることは想定できないため、学生にどのような方策をとると本人の希望内定が得られるか、実質的にすぐ効果が出る内容を検討している。

(2) 実施体制

学長を中心とした組織である大学協議会にて、就職にかかる課題を教員・職員間で共有している。掘り下げた課題に対しては、学長補佐を委員長とする全学就職委員会が審議して実行に移している。学長補佐とキャリアサポート課が連携し、本取組に係る事項を吟味して、全学就職委員会の承認を得た上で実施し、表れた効果等については学長補佐が大学協議会で報告し、情報を共有する。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組では、講座や試験で得られた結果に基づいて、就職相談を主とする相談員が、学生に対してきめ細かな就職相談を行うことにより、就職へのモチベーションを上げる。キャリアサポート課は、就職相談で得られた講座や試験の効果を報告書に分析してまとめて、学長補佐を通じて学長に報告し、全学就職委員会での取組を検証して評価する。

キャリアガイダンスの一環として、スキルアップを図るマナー講座や一般常識試験を取り入れている。頻繁に行うキャリアガイダンスにおいて、学生に大学全体の傾向を示すことにより、学生自身が就職へのモチベーションを上げることが可能になることから、自己認識をさせた上で自分が納得できる就職先を選択し、就職への満足度を上昇させると同時に大学全体の就職率を上昇させることが具体的な評価の指標となる。

6. 本取組の実施計画等

本取組では、マナー講座や一般常識試験の効果を実証するため、現在行われているマナー講座の1クラス26人制を半分の13人とし、きめ細かく個人の資質向上を図る。また、一般常識試験の結果を学生に戻し、自己の弱点の克服を期待するとともに個別の就職相談にて個々の特性を聴取して、具体的な就職先のアドバイスを行って、学生の就職への満足度を上げることを目指す。

マナー講座の充実については、その時勢において内容を少しずつ変更していかなければならない。就職相談における学生の相談内容の検討や全学就職委員会での評価に基づき、マナー講座の内容変更や一般常識テスト結果向上を行うことになるため、財政支援期間終了後も就職モチベーションの向上としての効果が見込まれる取組である。

本取組は、2ヶ年で計画している。本年度の具体的な実施計画は、次のとおりである。

- ① 2月～3月 就職対策マナー講座の実施
- ② 2月～3月 就職相談体勢の充実

次年度の実施計画は次のとおりである。

自己認識を明確にして、職業意識を高めることを達成するために、従来から行っているマナー講座(所作、自己PR力、ディスカッション力を磨く講座)をよりきめ細かく実施し、その結果に基づき職業指導を充実させるとともに、学生全員に受験させている一般常識試

事例43◆ 梶山女学園大学

験に加え、時事問題や数的処理能力向上のための筆記試験対策講座を実施することにより、自己の弱点を認識させ、基礎学力と絡めて学生に対する職業意識の一層の向上を図る。

また、前年度に増員した就職相談員の雇用を継続することにより、強化された就職支援体勢を維持し、学生に対する細やかな個別支援を行い、学生の就職への満足度を上げることを目指す。

さらに、就職が決まらないまま卒業した学生に対しても、引き続き就職支援を継続し、個別相談等を行うことにより、既卒生に対する就職意識の向上を図ることである。

これらの目的を達成するため、具体的な実施計画は次のとおりである。

- ① 9月 筆記試験対策講座の実施
- ② 11月～3月 就職対策マナー講座の実施
- ③ 1月 一般常識模擬試験（2回目）の実施
- ④ 4月～3月 就職相談の充実
- ⑤ 4月～3月 既卒者に対する就職支援